

| | | | |
|-----------------------|--|--|---|
| 重点目標 | 確かな学力を育てる創意工夫ある授業改善の推進 | | P |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した学習において、児童生徒は主体的に活動に参加し協働して学習に取り組んでいるが、単元を通して「何を学び、何が身に付いたのか」の検証が十分にできていない。 | | |
| 具体的な目標 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の実態把握を的確に行うとともに、生活単元学習において育む資質・能力を各教科等の目標や内容の観点で捉える。 I C T機器活用やチームティーチングの在り方など、効果的な指導方法について、組織的に改善する。 | | |
| 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> 実態把握と指導目標の適切化、学習評価の改善、効果的な指導体制の検討 学習指導要領の実施状況の確認 I C T機器の効果的な活用 授業研究を支える効果的な校内研修 | | D |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> 適切な実態把握と目標設定のために個別の指導計画の様式を改め、授業研究会を通して、生活単元学習において育成する資質・能力を各教科等の目標や内容から検討した。 I C T機器の活用事例を共有するとともに、効果的な指導方法や指導体制を検証するために教育専門監等による助言や学部ごとにロールプレイを行った。 | | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を根拠として、個別の指導計画を作成し授業を計画することで児童生徒のねらいが明確になった。 地域資源を活用した魅力ある単元により、児童生徒が主体的に学習に取り組み、他者と協力して課題の解決策を考え、学習の成果を表現するなど、確かな成長を引き出すノウハウを見いだした。 I C T機器を活用して、調べ、まとめ、表現する活動が活性化した。一部の生徒で代替コミュニケーション手段として活用した。 生活単元学習における児童生徒の成長を、各教科等に示す「育成を目指す資質・能力」の観点で「学び」として捉えた。 児童生徒の「学び」を明確にするため「観点別学習評価表」を作成した。 | | |
| 自己評価 | (評価) A | (根拠) <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは保護者の90%、職員の97%が本目標について「とてもよい」「よい」という評価をした。 | C |
| ↑ 評価基準 ↓ | <p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p> | | |
| 学校関係者評価と意見 | (評価) A | (意見) <ul style="list-style-type: none"> 最新の機器を活用した学びがなされている。子どもの能力を生かすことができる環境になっている。 校内に笑顔があふれて楽しく授業をしている。それぞれの学習活動に興味をもって取り組んでいる。 | C |
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 授業改善のノウハウや好事例を共有し、実践の拡充を図る。 「観点別学習評価表」を活用し、児童生徒一人一人の学びの履歴を踏まえた入学から卒業までの一貫した指導ができるよう教育計画や指導体制を整備する。 | | A |